

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 11 月 24 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	岡桃子

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
熊本サンクチュアリ	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
動物福祉実習	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 29 年 11 月 14 日 ~ 平成 29 年 11 月 17 日 (4 日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリ	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
<p>11/14 京都→熊本移動 熊本サンクチュアリ施設案内                  11/15 エンリッチメント作成 チンパンジー観察                  11/16 ボノボ観察 データまとめ                  11/17 プレゼンテーション 熊本→京都移動</p> <p>本実習では動物福祉の向上を図る実践的取組としての環境エンリッチメント、採食エンリッチメント、認知的エンリッチメント、およびこれらの実践と評価のために必要な行動観察や比較認知科学研究の手法を習得することを目指した。                  実習生7名が2班に分かれチンパンジー、ボノボを対象にエンリッチメントを作成した。それらをそれぞれの放飼場に設置し30分間の行動観察を行い、設置したエンリッチメント器具の利用時間を求めた。                  私たちの班は、「自然のものを使って費用も手間も低コストなアイテム」をコンセプトに、竹1本から3種類の器具「KAGUYA」(写真1)を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①竹の上部使用、竹の内部にはちみつやジュースを入れる</li> <li>②穴をあけて竹の節部分にカットした果物やナッツ類を入れる</li> <li>③残った節のない筒状の竹に果物を入れてつるす</li> </ul> <p>その結果、チンパンジーでは計3353秒、ボノボでは計1270秒間の利用時間となった。</p> <p>もう一方の班では蜂蜜水にロープをくぐらせてなめとることができる採食エンリッチメント器具「Endless Honey Trap」(写真2)を作成し、チンパンジーよりボノボで長時間の利用が見られた。</p>	
	
写真 1. KAGUYA	写真 2. Endless Honey Trap

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

今回の実習では、チンパンジーとボノボの両方ともにおいて長時間利用するようなエンリッチメント器具を作成することは難しいということがわかり、エンリッチメントを行う際は各動物種に適切な器具を考える必要があると感じた。また、エンリッチメントをただ行うだけでなく、どのように動物が利用するか、安全面やコストとのバランスはとれているかなど、きちんとフィードバックを行うことが重要だと再認識した。



写真 3. KAGUYA①を利用するチンパンジー

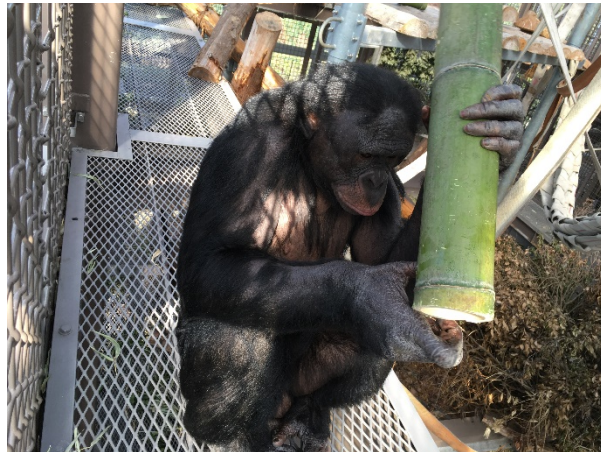


写真 4. KAGUYA②を利用するボノボ



写真 5.  
Endless Honey Trap  
を利用するボノボ

### 6. その他 (特記事項など)

本実習でお世話になりました平田先生、森村さん、熊本サンクチュアリの職員の方々、実習参加者のみなさまに感謝いたします。ありがとうございました。